

# さんご礁魚類

# 水族館へ行こう!

## 京都大学白浜水族館



夏から初冬にかけて、紀南沿岸の岩礁地帯はカラフルなさんご礁魚類の幼魚たちでにぎやかだ。その様子は漁港の岸壁や波止場からでも垣間見える

夏から初冬にかけて、紀南沿岸の岩礁地帯はカラフルなさんご礁魚類の幼魚たちでにぎやかだ。その様子は漁港の岸壁や波止場からでも垣間見える

「さんご礁魚類」には特

21

### 山本 泰司

して生活する魚類すべてを指す。代表的な科は、ペラ、スズメダイ、ハゼ、ハタ、チョウチョウウオなどだ。種数が多く、周囲8kmほどの沖縄島の小島で、600種以上も確認

沿岸で見られるさんご礁魚類の多くは、このようにして琉球列島などから黒潮に乗って流されてきたものと考えられている。水温が高い夏、晩秋、

ほとんどのさんご礁魚類が死滅するようだ。ところが13度以下にならない冬もあって、春には越冬した幼魚が何種類も見られることがある。このような暖冬の年が続くと、繁殖サイズに達した成魚が釣れたり、網にかかったりして「見慣れない魚

# 悲劇的な終末待つ魚

認められている。

沖縄では4月ごろから産卵期に入り、浮遊卵やプランクトン生活をする仔稚魚の中には、黒潮に取り込まれて北へと運ばれるものもある。紀南

これらの幼魚たちは岩礁やその周辺で暮らして成長する。しかし、間もなく悲劇的な結末を迎えることになる。ほとんどは冬季の低水温に耐えられず死んでしまふのだ。季節風が吹き荒れる日が続くと、北西に開けた海岸には多数の幼魚が打ち上がることもある。

経験的には12度台の表面水温が2、3日続くと、

△ 毎秋、その年生まれのさんご礁魚類の幼魚に入れ替える403号水槽。キリンミノもその一種

経験的には12度台の表面水温が2、3日続くと、

（京都大学技術職員）